編集後記

秋も深まり、さまざまな色づいた葉が地面やアスファルトを染める季節になりました。台風のこの辺りでは例年と同様風景が見られますが、車で30分も走れば変わらず果てた単色系の世界が広がっています。どちらも色彩、自然との折り合いを考えるチャンスでもあるかもしれませんが、これまでの全国の先生方の有形・無形のご支援に感謝申し上げます。

さて、本号は「脳神経外科医の知識・技術そして spirit の継承」特集 5 論文、症例報告 4 論文から成る充実した内容となっております。第 31 回日本脳神経外科コンGRESS総合の小笠原邦昭会長が主任としたテーマは「脳神経外科医の Professional Spirit と Research Mind」でした。内藤牧氏の文化講義「学問のススメ」で、本題にぴったりの話し方が記憶に新しいところと思います。

今回の特集も、このテーマにふさわしい論文が並んでいます。井上善弘、石川達哉、吉田一成、高安浩和先生の論文では、各専門領域あるいは立場での手術トレーニングの具体的な例が紹介されています。これらを参考に、専門領域の挑戦に応じた、簡単ではあってもオーダーメイドのプログラムを作成し、一定期間ごとに成果をみながら改訂していくのがよいかもしれないなどと思いながら読ませていました。手術トレーニングという技術面を述べようすると、結局は spirit と両輪をなすことがよくわかります。斎藤延人先生の論文は脳神経外科教育全般に関する考察です、増える一方の基礎的・臨床的な知識・技術に脳神経外科医にとってはどう向きあっていくか、個別の領域での努力と全体とのバランスをどうするか、考えさせられる内容です。

症例報告 4 論文は知識・技術の継承の体現の一つです。それぞれの症例報告には、各施設の症例に対する姿勢やなぜそうしたのかといった考え方が述べられ、行間に垣間見られくなります。次回の症例への参考にしたいと思います。

一昨日、第三次補正予算が国会を通しました。さまざまな災害復興関係事業が計画されています。宮城県の復興 10 年計画では、当初の 3 年で復旧、次の 4 年で再生し、最後の 3 年で発展することになっていますが、重要な点は、発展期と将来の明確な目標の下に「復旧期」の事業を計画することだと思われます。医療分野では、壊滅した医療機関の復旧が急がれるとは論を抜かせませんが、この時に、例えば今後の医療に必須となる地域医療サービス促進ネットワークの将来像、理想像を明確にして復旧計画に反映するなど、速く見る目をもつ必要があると思われます。

脳神経外科医の知識・技術・spirit の継承、あるいは教育プログラムにおいても、実は、将来あるべき世界や日本の人々の姿を実現するための脳神経外科医の役割に関するビジョンを明確にし、そこから逆算して今ならが求めるか、という考え方ができるのかもしれませんが、本特集を読むと、目の前の課題への取り組みもう少し広く見る目の 2 つで一組なんだろうと改めて思いました。

（清水宏明）